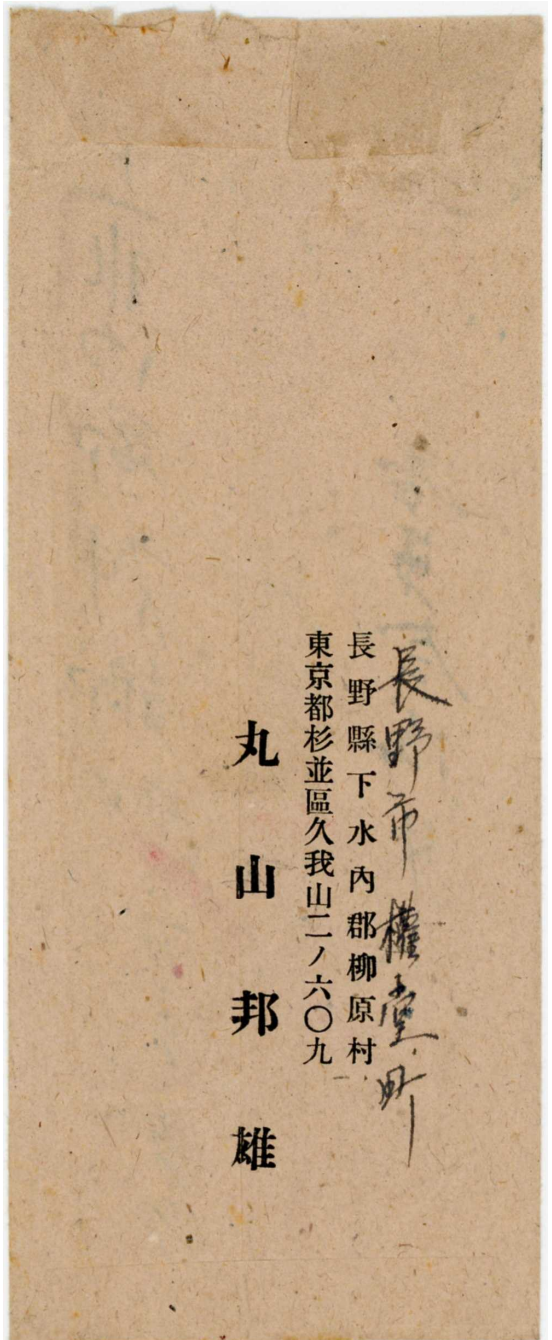
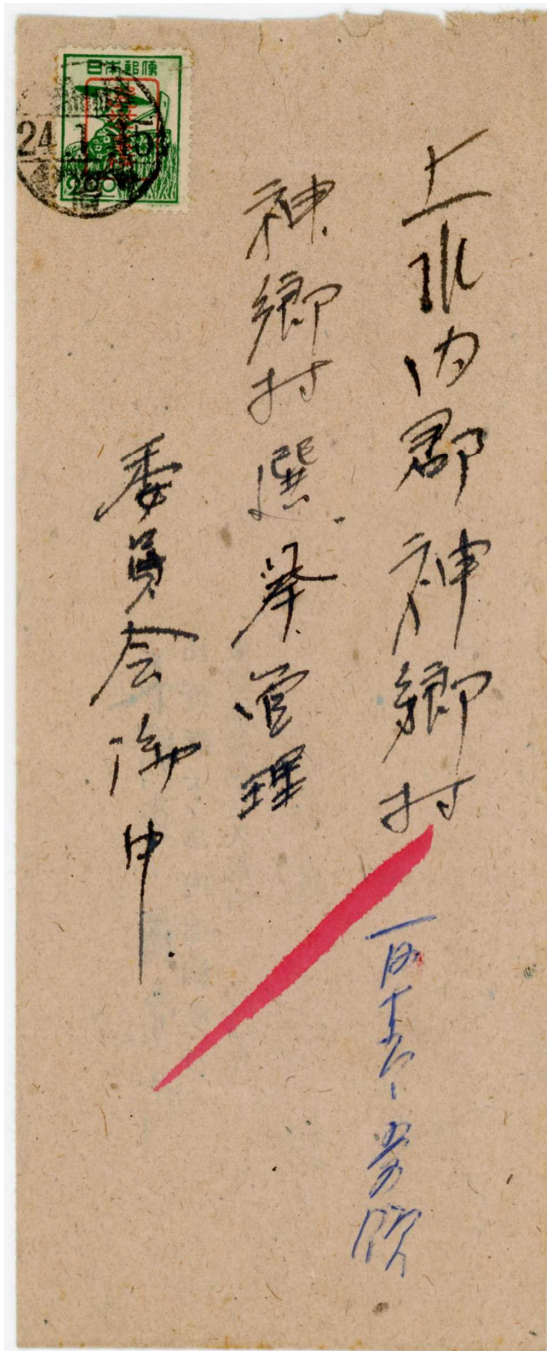


選挙切手貼り実遞便

永吉 秀夫



選挙管理委員会あて開封書状

長野S24(1949). 1. 15

昭和24年1月23日投票の衆議院議員選挙では、選挙事務証紙(選挙切手)を使った無料選挙郵便制度が適用され、当時の2円普通切手に「選挙事務」の文字を加刷した証紙が候補者一人あたり1000枚ずつ交付されました。その大半は郵便局で、選挙印でプリキャンセルされた官製葉書と交換され、

有権者あての選挙運動用葉書として使用されました。一方郵便局に提出された証紙は台紙に貼られて消印され、一定の保管期間を経た後に払い下げられて、収集家の手に渡りました。せっかく制定された制度でしたが、面倒な手順を必要としたため、このシステムは1回限りで廃止されてしまいました。

この証紙は私製葉書や開封書状に直接貼って差し出すこともできたので、少数ながらそのような使用例が残されています。その場合、封筒に「斜め朱線」を表示する必要がありました。あくまでも無料選挙郵便物を示す証紙であったため、印面上の2円額面表示は無意味で、多数貼りとか一般の切手との混貼使用というようなものは、原理的に存在しません。

紹介品は、この選挙での長野1区の立候補者が、選挙区内の選挙管理委員会あてに差し立てた選挙郵便物です。消印の局名がやや不鮮明ですが、「長野」であることは間違いありません。中味が何だったのかはわかりませんが、有権者あてに送る選挙運動用の郵便物だけでなく、このような事務連絡用の郵便物も無料郵便物として差し出せました。もっともそのような郵便物の方が、加刷文字の「選挙事務」にふさわしいと言えなくもありません。

差出人の丸山邦雄という人に心当たりがなかったので、ネットで調べてみました。終戦直後に旧満州から密かに脱出したのち、残された日本人の祖国引き揚げに尽力した人で、後に明治大学や帝京大学で経済学の教育・研究に携わったそうです。地元では結構著名な人のようで、その功績をたたえるため、最近になって出身地の長野県飯山市の飯山駅前には顕彰碑が建立されました。除幕式が本年7月10日に行われたそうです。

しかしこれらの情報の中に、国会議員という肩書きが出てきません。そこでこの選挙結果がどうであったかを調べたら、右のようになっていました。確かに得票数6位で、落選でした。氏が衆議院選挙に立候補したのは、このときだけだったようです。昔と違って、こういうことを調べるのも簡単な時代になりましたね。

当	小坂 善太郎	民主党 1947 58歳 [前職]	55,195 票
当	田中 重弥	民主自由党 42歳 [元職]	42,322 票
当	倉石 忠雄	民主自由党 50歳 [前職]	38,354 票
	青木 恵一郎	日本共産党 45歳 [新人]	29,589 票
	中沢 茂一	国民協同党 38歳 [新人]	24,063 票
	丸山 邦雄	民主自由党 47歳 [新人]	13,780 票
	(以下4名)		

余談ですが、このとき当選した小坂善太郎、倉石忠雄、といった面々は、そののち外務大臣や農林大臣などを務めた大物政治家です。この方々のお名前は、筆者も覚えています。また所属政党名には、見慣れない名称が並んでいます。小坂氏の所属が「民主党 1947」となっていますが、これは何代にもわたって消滅・復活を繰り返した「民主党」のうち、1947-50年に存在した政党であることを表したものです。

紹介品は最近の入手品ですが、筆者は以前からこの証紙貼り実郵便をもう1通所持しています。「日本切手百科事典」掲載品で、差出しが日本社会党兵庫県連、宛先は個人ですが「転居先不明差出人戻し」となっています。今回大枚を叩いて2通目を入手したのは、少し異なる使われ方をした品だったからです。2通並べてリーフに貼ることにいたしましょう。